

美術館だより

Contents

- 1-2 企画展「間島秀徳展 天地無常
The Kinesis Always Reveals New Panoramas —そこに新たな風景が」より (五浦美術館)
- 3 企画展紹介「国吉康雄展 ～安眠を妨げる夢～
福武コレクション・岡山県立美術館のコレクションを中心に」(近代美術館)
- 4 企画展紹介「天心が託した国宝の未来—新納忠之介、仏像修理への道」(五浦美術館)
- 5 事業レポート(近代美術館)
- 6 令和4年度 新収蔵作品紹介(近代美術館)
- 7 企業パートナーシップ事業 (近代美術館)
- 8 インフォメーション

天心記念五浦美術館

まじまひでのり
「間島秀徳展 天地無常 The Kinesis Always Reveals
New Panoramas —そこに新たな風景が」より



《Kinesis No.749 (sansui)》 2021年 撮影:飯村昭彦

青と白の絵の具が複雑に重ねられて形成された画面上に、更に濃い青が三角形状に厚塗りされています。荒い波に打たれる岩礁でしょうか。それとも、雲海に聳える山嶺(さんりやう)でしょうか。神々しくすらある青色の隆起するイメージに、私たちは自然の姿を見出すことができます。

作者の間島秀徳は、1990年代半ば、霞ヶ浦が眺望できる高台にアトリエを構え、現在に至るまで同地で制作を続けています。画業を通じて一貫して取り上げてきた「水」というテーマは、「山水 (sansui)」と副題が付

けられた本作からもうかがえます。農作業用のポンプを使って、床置きした和紙を水浸しにするところから制作を始める間島のスタイルは唯一無二ですが、間島が追究するテーマは東洋絵画が脈々と紡いできた伝統と重なるものがあり、現代における「山水画」とみなすことができるでしょう。また間島の作品は、私たち人間と自然との関係を今日的な視点からも問い直します。間島の作品群が五浦美術館にどのような空間を生み出すのか、是非会場で体感していただければ幸いです。

[天心記念五浦美術館 副主任学芸員 塩田 稔雄]

企画展紹介 まじまひでのり
間島秀徳展 天地無常
The Kinesis Always Reveals New Panoramas
—そこに新たな風景が

会 期：2023(令和5)年9月13日(水)～11月26日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休 館 日：毎週月曜日

※茨城県民の日:11月13日(月)は開館。

入 場 料：一般840(730)円／満70歳以上420(360)円／

高大生630(520)円／小中生320(210)円

※()内は20名以上の団体料金

※11月13日(月)県民の日はすべての方が入場無料

※障害者手帳等をご持参の方は無料

※土曜日は高校生以下無料

主 催：茨城県天心記念五浦美術館

協 賛：いばらき観光キャンペーン推進協議会

後 援：朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／株式会社茨城放送／
産経新聞社水戸支局／東京新聞水戸支局／毎日新聞水戸支局／
読売新聞水戸支局／北茨城市／北茨城市教育委員会／
かすみがうら市／かすみがうら市教育委員会／武蔵野美術大学

④本展のために制作された新作を展示します。こちらの作品は、どなたでも自由にさわって鑑賞することができます。

⑤これまで間島秀徳の個展では、開催館の所蔵資料とのコラボレーションが行われてきました。本展では、茨城県近代美術館のコレクションから小川芋銭(1868-1938)を取り上げ、間島作品と組み合わせて展示するコーナーを設けます。

⑥11月3日(金・祝)には、作家と当館館長・小泉晋弥によるクロストークを開催します。詳細は当館ホームページをご覧ください。

[天心記念五浦美術館 副主任学芸員 塩田 稔雄]

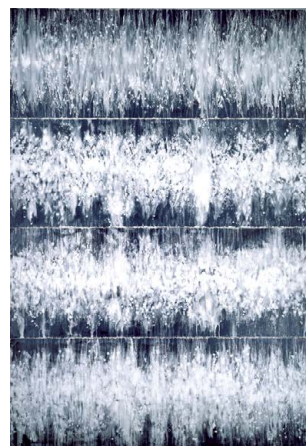
展覧会の概要

間島秀徳(1960-)は、茨城県かすみがうら市を拠点として、水をテーマに制作する画家です。1980年代後半から個展を中心に活動を続け、特に2000年代以降は、ギリシア語で「運動」「変化」を意味する「Kinesis(キネシス)」を作品のタイトルとしています。墨や絵の具を水の動きによって画面に定着させた作品は抽象的でありながら、私たちの前にひとつの「風景」となって立ち現れます。

本展は、過去最大規模となる間島の回顧展です。初期作品から《Water Works》、《Kinesis》シリーズ、そして最新作に至るまで、およそ40年にわたる画業を振り返ります。間島作品と響き合う五浦の景観とともに、館全体を使った展示をお楽しみください。

みどころ

- ①間島秀徳の個展としては過去最大規模の展覧会です。修復作業等を経て久々に公開される初期作品から、今年の個展で発表された最新作まで約90点を紹介し、間島芸術の軌跡を辿ります。
- ②企画展示室だけでなく、エントランスロビー、展望ギャラリー、岡倉天心記念室など全館を使い、壮大なスケールで間島作品を展示します。
- ③会場内では作家本人による作品解説動画を配信します。イヤホンやヘッドホン等をご用意の上お越しく下さい。また、会場内では一部作品をのぞき写真撮影が可能です。



《Untitled》1993年
練馬区立美術館蔵



《Kinesis No.215》2004年
茨城県近代美術館寄託(五浦・六角堂でのインスタレーション)



《Kinesis No.699 (cosmic flow)》2017年 撮影:飯村昭彦



企画展紹介 国吉康雄展 ～安眠を妨げる夢～

福武コレクション・岡山県立美術館のコレクションを中心に

会 期：2023(令和5)年10月24日(火)～12月24日(日)
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
 休 館 日：毎週月曜日
 ※茨城県民の日:11月13日(月)は開館
 入 場 料：一般1,000(870)円／満70歳以上500(430)円／
 高大生730(610)円／小中生370(240)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※11月13日(月)県民の日はすべての方が入場無料
 ※障害者手帳等をご持参の方は無料
 ※土曜日は高校生以下無料
 主 催：茨城県近代美術館

展覧会の概要

国吉康雄(1889-1953)は明治期の岡山に生まれ、16歳で労働移民として単身アメリカに渡ります。ロサンゼルス、ニューヨークと働きながら絵を学び、初期にはアメリカのフォーク・アートに影響を受けたプリミティブで幻想的な作品により注目されました。

やがてアメリカを代表する画家のひとりとなる国吉ですが、アジア系移民排斥運動、大恐慌、二つの世界大戦といった激動する時代を背景に、彼の作風は変化し続けます。日本人であることで苦しい立場におかれながらも、国吉は反戦や民主主義へのメッセージを作品に託して発表し続けました。こうした国吉の苦悩や思いが現われた、

憂いに満ちた女性像や暗喩的な静物画などは観る者を魅了し、現在アメリカで国吉の美術家、社会活動家としての再評価が始まっています。

本展では約170点の国吉作品と、日米における国吉研究の成果や、最新の研究資料でその全貌に迫ります。また欧米の美術館で実践される多面的な紹介も試みます。

みどころ

国吉康雄の作品がこのようなまとまって紹介されるのは、茨城県では初めてのこととなります。国吉の作品や資料を世界的規模で所蔵する福武コレクションを中心に、日本初公開となる初期のインク画や、岡山以外では初めてとなる国吉が第二次世界大戦中に使用していた写生用手帳、強制収用された日系人のためのチャリティーに出品された大型作品なども展示します。

岡山大学国吉康雄記念研究講座の監修のもとで開催する本展では、あらたな研究成果の紹介に加え、同講座が開発してきた多彩な鑑賞・関連プログラムも提供いたします。また本展監修者が制作した、日米の国吉研究者へのインタビューを含む記録映像を、90分のドキュメンタリー作品として限定公開いたします(詳細はp.8をご覧ください)。



《鶏小屋》1921年 福武コレクション蔵



《もの思う女》1935年 福武コレクション蔵



《安眠を妨げる夢》1948年 福武コレクション蔵



《祭りは終わった》1947年 岡山県立美術館蔵



《逆さのテーブルとマスク》1940年 福武コレクション蔵



《ミスターエース》1952年 福武コレクション蔵

会 期：2023(令和5)年12月9日(土)～2024(令和6)年2月12日(月・振)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休 館 日：毎週月曜日、12月29日(金)～1月1日(月・祝)、9日(火)

※ただし、1月8日(月・祝)は開館。

入 場 料：一般320(260)円／満70歳以上160(130)円／

高大生210(150)円／小中生150(100)円

※()内は20名以上の団体料金

※障害者手帳等をご持参の方は無料

※土曜日は高校生以下無料

主 催：茨城県天心記念五浦美術館

展覧会の概要

新納忠之介(1869-1954)は、東京美術学校彫刻科で高村光雲に学び、優秀な成績で卒業しながらも、彫刻制作ではなく文化財の修理に生涯を捧げた人物です。1898(明治31)年、岡倉天心が創設した日本美術院に参加後、多くの仏像修理に携わり、天心が推し進めた文化財保護行政の一翼を担いました。また、天心没後の1914(大正3)年、日本美術院第二部(国宝修理部門)が「美術院」と改称して独立し、新納はその中心となって数々の国指定の文化財を修理しました。まさに今日まで受け継がれる文化財修理の礎を築いた人物であると言えます。

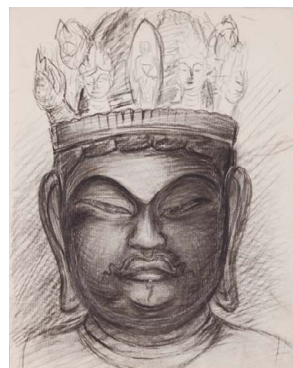
当館では平成26年度に新納の遺族より、その旧蔵資料約2,300点の寄贈を受けました。これらの資料の中には、若き日の新納が、彫刻に対する研究の一環として描いたと思われる《東大寺伎楽面模刻》(東京藝術大学大学美術館蔵)の写生や、天心が新納に宛てた新発見の書簡など、貴重な品が多く含まれています。

この展覧会では新納忠之介旧蔵資料を中心に、修復のために新納が模造した仏像や、レリーフ等の彫刻作品を展示します。精巧に描かれた修理図面や研究ノート、また新納の周辺の人々との交友が窺える写真や書簡といった品を通して、天心の理想とする仏像修復の道をひたすらに歩んだ新納忠之介の業績をご紹介します。

みどころ

- ①新納忠之介作《一字金輪坐像(模造)》(東京国立博物館蔵)を展示します。原品は岩手県の中尊寺に伝わり、その美しい彩色から「人肌の大日」とも称される平安後期の仏像です。新納の卓越した技術により、正確無比に模造されたその優美な姿をぜひご覧ください。
- ②新納によって描かれた、東大寺伎楽面模刻の写生を多数展示します。仏像修復の第一人者として知られる新納による伎楽面の写生は、珍しく貴重な資料と言えます。実際の東大寺伎楽面模刻と合わせて展示しますので、実物と写生とを見比べてお楽しみください。
- ③新発見の岡倉天心の書簡を二通展示します。一通は、新納による一字金輪坐像の模刻を見た水木要太郎(1865-1938)が、その感想を新納に宛てた葉書に、天心も「御全盛の噂致居候」と書き添えているもの(年月日不詳)、もう一通は奈良にいる新納に、天心の同地来訪を知らせる内容のもの(1911〈明治44〉年9月17日)です。天心をはじめ、新納と交友のあった人物たちにも、この展覧会を通してご注目ください。

[天心記念五浦美術館 学芸補助員 宮本夢花]



新納忠之介
《スケッチ帳
(和歌山県内風景、仏像等)》
1898年頃 当館蔵



新納忠之介《一字金輪坐像(模造)》
1897年 東京国立博物館蔵
出典:ColBase (<https://colbase.nich.go.jp>)



新納忠之介
《東大寺伎楽面写生(崑崙)》
1892-98年頃 当館蔵



岡倉天心・水木要太郎
「葉書・新納忠之介宛」
年月日不詳 当館蔵



「ボストン美術館修理所にて
愛染明王像とともに写る新納忠之介」
1909-10年 当館蔵

事業レポート 子どものためのオープンワークショップ2023 夏 「アップサイクル×アートのちから—アートでSDGs!2023—」 (8月25日[金]～8月26日[土])

地域に愛されるイベントとして、毎年、茨城大学教育学部と協力して開催している「子どものためのオープンワークショップ 夏」。今年は材料提供をいただくなど、地域企業の支援を受けて開催し368人の来場者がありました。ここでは、多くの方から好評いただいた本イベントの、実施までの過程や当日の様子について報告します。

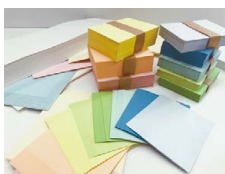
アップサイクルを楽しみながらSDGsを考える機会に

近年聞くようになった「アップサイクル」。簡単に言うと「役目を終えたモノに新たな価値を与え、生まれ変わらせること」を意味します。「新たに魅力あるものを生み出す」と、「資源を無駄にせず、有効に使う」という、一見、相反する内容を同時に実現できるのがアップサイクルです。資源を大切に使うことは世界の目標であるSDGsに繋がると言えます。近代美術館では、次世代を担う子どもたちが参加するイベントにおいても、SDGs達成に繋がるテーマを扱うことに意義があると考え、令和4年度にオープンワークショップ「アップサイクル×アートのちから—アートでSDGs!」を実施しました。そしてこのテーマを継続することを大切にしたいと考え、今年度も同じ内容で実施しました。

なお、SDGsやアップサイクルをテーマに取り入れるにあたっては「役目を終え、すてられるはずのモノを材料に使い、『自分なりの創造のアイデア』というアートのエッセンス(ちから)を加える。そして、何ものにも代えがたい価値を持つ、大切な作品をつくる。このことが『アップサイクル』である」という解釈をしてイベントを行いました。

地域企業の温かな支援であつまった魅力的な材料

印刷物などを裁断した際に出る紙、コーヒー豆を海外から輸送する際に使う袋、家具を製造する際に出る木っ端。これらが今年のワークショップで使用した主な材料です。いずれもアップサイクルの多様な可能性を秘め、創作意欲が湧く魅力ある材料ばかりでした。これらの材料はすべて、近隣地域の企業の提供により準備することができました。各企業とも、「子どもたちのため、地域貢献に繋がるのであれば」と快く協力くださいました。同時に、温かな応援の言葉もいただき美術館が地域の多くの皆様の厚意に支えられていることを改めて実感する機会となりました。



工場案内してもらいつつ、企業の方と相談して、さまざまある中から選んだ色とりどりの美しい「紙」。なかなか手に入らない貴重な種類の紙を、たくさんご用意いただきました。

提供:株式会社 光和印刷



コーヒー豆生産国によって異なるさまざまな種類の袋。袋のデザインは多種多様ですが、協力企業オリジナルのデザインは特に魅力的。

提供:株式会社 サザコーヒー



木の種類ごとに木目や香り、手触りが異なり五感で楽しめる木っ端。子どもたちが触った際にけがの無いよう、数千個に及び一つ一つを丁寧に研磨の上提供していただきました。

提供:株式会社 家具の八木沢(八木沢木工)



「流木」も材料として準備しました。大洗の海岸で職員が約1500本を集め、流木の洗浄、研磨作業は大学の指導者、学生、美術館職員で協力して行いました。一本ずつ異なる形がさまざまなアイデアの素になりました。

大学との連携協力

美術館が提示する大きなテーマを基にして、学生が大学の講義の中で数か月にわたって考案するワークショップのプログラムは、毎年参加者から好評です。

今年は、〈おさかな変身隊〉〈まほう使い再生の森〉〈はなさくタペストリー〉の3つのプログラムで行いました。

学生たちは子どもたちに寄り添い、自分たちも楽しみながらイベントに臨んでいました。また、学生からは「準備は大変だったが、みんなに喜んでもらえて嬉しい」、「材料を生かした子どもたちのアイデアに感動した」、「今後の教育実習でもこの経験を生かしたい」などの感想が聞かれました。



ワークショップを終えて

多くの子どもたちをむかえたワークショップ当日

イベント当日は満員御礼となり、ありがたくも「大いそがし」となりました。子どもたちが楽しむ様子や、「来てよかったよ」「ありがとう」の言葉は、美術館として大変ありがたく、励みとなりました。ご支援ご協力いただいた皆様、ご来場いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。



制作中の子どもたち



完成した作品と共に

[近代美術館 主任学芸主事 仲田敦子]

令和4年度 新収蔵作品介绍

茨城県
近代美術館

茨城県近代美術館では、令和4年度に県内外の皆様から、日本画14点（うち1点は管理換え作品）、油彩画3点、水彩画10点、素描1点、版画16点の合計44作品を寄贈して頂きました。

これらの寄贈により、当館のコレクションはより充

実したものとなりました。この場をお借りして寄贈者の皆様をはじめ、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

新収蔵品は、本年度の所蔵作品展の中で順次ご紹介しています。



菱田春草《夕陽》

1907年

菱田春草は日本美術院の五浦移転に際し、家族をつれて同地に居住しました（1906年から1908年まで）。この作品は、春草が当時試みていた色彩による無線描法で描かれています。日本美術院の活動を支えた齋藤隆三の旧蔵品です。



榎戸庄衛《初秋の裸婦》

1949年

茨城県桜川市出身の榎戸庄衛は、戦前は家族をモデルに日常の穏やかな情景を描き、注目されましたが、戦後は抽象画へと画風を転じました。ブラックやマティスの影響がうかがえる本作品はその過渡期に制作されたものです。



松本楓湖《勿来之関図》

1896年

平安時代後期の武将、源義家が、後三年の役からの帰洛途上、勿来の関で桜を見て「吹く風をなこそその関と思へども道もせに散る 山桜かな」と詠んだ故事に基づく作品です。松本楓湖は明治時代に歴史画の重鎮として活躍した、現在の茨城県稲敷市生まれの画家です。



小堀 進《山麓》

1973年

現在の茨城県潮来市に生まれた水彩画家、小堀進は、1955年頃に、対象を単純化・省略化して捉え、鮮やかな色彩と明快な構図、大胆な筆致により、広大な風景を表していく、いわゆる“小堀様式”を完成させました。本作品はその代表的作例の1つです。



長谷川 潔《農家と雲》

1929年

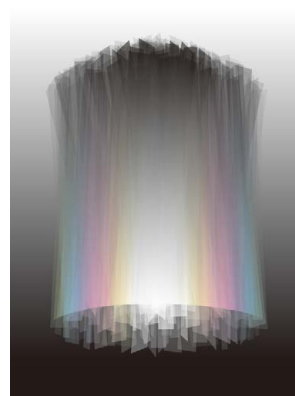
作者は1919年28歳で渡仏以来、89歳で没するまで一度も帰国せず銅版画を制作し、高い評価を得ました。本作品は渡欧後に美を感じるようになったという幾何学的な建築物と、丘陵や畑の有機的な曲線を対比した作品です。



守 みどりひかりぼこ《光函》

2021年

本作では、ヤマボウシの花に包まれ、心地よさそうに眠る少女の姿が表現されており、作者は「絵の中の空気や温度を描く事を意識し」て描いたと語っています。再興第106回院展で第27回天心記念茨城賞を受賞した作品です。



後藤雅宣《重色の光柱》

2017年

デザインおよび美術教育の分野で実績がある作者は、2000年頃よりコンピュータグラフィックスによる制作をはじめました。本作品では、色を重ねて透明感のある光の柱の画像を制作した後、その画像を顔料インクによりキャンバス布に出力しています。

茨城県近代美術館企業パートナーシップ事業

プラチナパートナー企業のCSRやメセナ活動を今号と次号の2回に分けてご紹介します。

株式会社常陽銀行

当行およびめぶきフィナンシャルグループは「地域とともにあゆむ価値創造グループ」を長期ビジョンとして掲げ、持続可能な地域社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする地域の全てのステークホルダーの皆さまの課題に寄り添い、ともにあゆみ解決することで、新たな価値を創り続けてまいります。



寄贈した玩具で遊ぶ園児

金融サービスを通じSDGsに貢献

【寄贈サービス付私募債】

お客さまが発行する私募債の手数料の一部を活用し、お客さまが希望する学校等に図書やスポーツ用品等を寄贈する「寄贈サービス付私募債」を取り扱っています。さらに、SDGsに貢献する企業を応援するため、寄贈先にSDGs取組団体などを加えた「社会貢献応援債」を取り扱うなど、持続可能な社会の実現に向けて金融サービスを通じた地域貢献に努めています。



常陽藝文センター

地域の芸術・文化振興と普及活動

【常陽藝文センター】

常陽藝文センターは、常陽銀行の創立50周年記念事業の一環として、1982年3月に設立、翌1983年7月から本格的に活動を開始した文化財団です。以来、「芸術・文化を通じて潤いのある郷土づくり、豊かでゆとりある個人生活づくりに寄与する」ことを目的に、郷土文化の掘り起こしや文化の普及活動など幅広い事業を展開しています。

関彰商事株式会社

奨学金制度、募金活動、地域イベントへの協賛、ボランティア活動など、様々な角度から社員・会社が社会貢献活動に取り組んでいます。これからも「地域の皆様と共に生きる企業」として、社会に貢献してまいります。



江崎玲於奈賞に単独協賛

ノーベル物理学賞受賞者江崎玲於奈氏の功績を讃えて創設されたこの賞は、ナノテクノロジーの分野における顕著な研究業績を顕彰し、科学技術振興に寄与することを目的として、茨城県が創設した日本の科学技術賞です。当社は地元企業として2004年の第1回目の授賞式からこの賞を単独協賛するとともに、「科学技術に興味を抱く若者の育成・支援を図る」という目的のもと、受賞者の研究室を県内の高校生が見学する取り組みに対しても協賛しております。



地域や社会の課題をスポーツで解決

筑波大学体育スポーツ局と連携し、地域の皆様のウェルビーイング（身的、精神的、社会的に満たされた状態）を目指し、各種プログラムの開発に取り組んでいます。

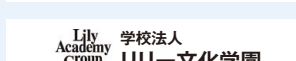
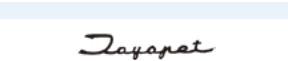
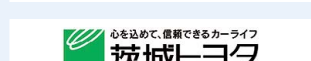
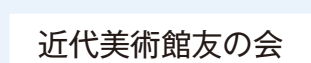
2023年には、人工知能でスポーツのフォームを分析する「スポーツアナリティクス事業課」を新設し、スポーツの現場と科学をつなぐ新たな価値創造を目指しています。



キッズアート体験

筑波大学との芸術分野における連携活動では、2016年から子ども向けイベント「キッズアート体験」を主催。芸術を学ぶ筑波大生と共に子どもたちがアートに取り組む本イベントは、毎年好評を博しています。

パートナー企業の皆様



INFORMATION

10月～2月のご案内

MOMA
IBARAKI

茨城県近代美術館

〈企画展・関連イベント〉
〈国吉康雄展～安眠を妨げる夢～〉
10月24日【火】～12月24日【日】

【講演会・講座等】会場：地階講堂
定員：250名 ※申込不要／参加費：無料

①講演会「アメリカでの国吉康雄の現在地」
講師：伊藤駿氏（本展監修／岡山大学特任助教）
鼎談：国吉研究の第一人者・小澤律子さんを囲む
登壇者：小澤律子氏（国吉康雄研究家）／西郷南海子氏（博士【教育学】／日本学術振興会特別研究員PD）／伊藤駿氏
期日：11月11日【土】 午後1時～午後3時

②講演会「国吉康雄の作品における色彩変化と描画材」
講師：笠原浩美氏（筑波大学博士特別研究員・美術家）
講演会「明治の美術教育は国吉の画業にどう影響したか」
講師：赤木里香子氏（岡山大学教授）
鼎談「国吉康雄の用いた画法を俯瞰する」
登壇者：赤木里香子氏／笠原浩美氏／伊藤駿氏
期日：11月25日【土】 午後1時～午後3時

③映像ドキュメンタリー上映「描かれた永遠の現在地～何が国吉康雄の安眠を妨げるのか」2023年・90分
期日：12月23日【土】 午前11時～午後1時
※午後1時からの回終了後、本展監修者によるトークあり
【ワークショップ】会場：地階講座室

①「国吉さんが好んだカゼイン絵の具で描いてみる」
期日：11月26日【日】 午前10時～午後2時
対象：一般
定員：10名 ※要事前申込【Webのみ】／参加費：無料
（申し込み多数の場合抽選、10月20日【金】まで申込受付）

②「墨で模写する・国吉も受けた明治期の美術教育を再現する」
期日：11月26日【日】 午後1時～午後3時
※自由参加、申込受付午後2時30分まで／参加費：無料

③「お面・額装作りワークショップ」
期日：11月12日【日】／13日【月】 午後1時～午後3時
※自由参加、申込受付午後2時30分まで／参加費：無料

【本展監修者とみる新たな探求と発見ツアー】
講師：才士真司氏／伊藤駿氏
期日：10月24日【火】／11月12日【日】／12月24日【日】 午前11時～午後2時
会場：企画展示室 ※申込不要／要企画展チケット

〈所蔵作品展 第1展示室〉
〈日本の近代美術と茨城の作家たち 秋から冬へ〉
10月21日【土】～12月17日【日】

〈日本の近代美術と茨城の作家たち 冬から春へ 前期〉
12月20日【水】～2月18日【日】

〈所蔵作品展 第2展示室〉
〈色彩の響きをきく／みる〉
10月21日【土】～12月17日【日】

〈よみがえる美術作品 保存と修復〉
12月20日【水】～2月18日【日】

〈アートフォーラム展示〉
〈国吉の現在地をより深く知る〉
10月24日【火】～12月24日【日】

〈その他のイベント〉

・「どなたでも参加できる茨城大学の学外授業 令和5年度美術展アカデミー」
講師：甲斐教行氏（茨城大学教育学部教授）
期日：12月16日【土】 午後2時～午後3時30分
会場：地階講堂
定員：250名程度 ※要事前申込／参加費：無料
※各イベントの詳細や申込方法は当館ホームページをご覧ください。

茨城県つくば美術館

〈土曜講座〉

時間：各日午後1時30分～
会場：2階アルスホール
料金：無料

10月14日【土】
第6回「三の丸尚蔵館の名品から見る皇室と陶磁器の近代」
【講師】飯田将吾（茨城県陶芸美術館主任学芸員）

11月11日【土】
第7回「間島秀徳の芸術について」
【講師】塩田真雄（茨城県天心記念五浦美術館副学芸員）

12月9日【土】
第8回「日本近代洋画と茨城」
【講師】吉田衣里（茨城県近代美術館首席学芸員）

〈貸ギャラリー展〉

10月11日【水】～10月22日【日】
・千葉大学教授退職記念 加藤修展
叙情と静謐の狭間を漕いでたどり着くいま【絵画・立体】

10月24日【火】～10月29日【日】
・第1展示室…カーソコチの建築・住宅展【建築】
・第2展示室…第27回七彩会展【日本画】【絵画】

10月31日【火】～11月5日【日】
・茨城県高等学校総合文化祭 美術展覧会 写真展【写真】

11月7日【火】～11月12日【日】
・第1展示室…第4回山中重治個展
～ザリヤ神話 筑波大学 教材教具～【絵画・パネル】
・第2展示室…夜櫻夢幻そして山河幽暎へ～阿波佐統和紙で綴る～
風景写真家五島健司の世界【写真】

11月14日【火】～11月19日【日】
・第39回VIC展 筑波大学大学院人間総合科学学術院
人間総合科学研究群芸術学学位プログラム
（博士前期課程）洋画・版画・日本画 作品展【絵画・版画】

11月21日【火】～11月26日【日】
・第5回伊賀玲子洋装・アトリエコレクション【洋装作品】

11月28日【火】～12月3日【日】
・第1展示室…マリンドール展
～私のちいさな人形たち～【工芸】
・第2展示室…Cas Me【絵画】

12月5日【火】～12月10日【日】
・第76回県南高等学校連合美術展覧会【絵画・彫刻】

12月12日【火】～12月17日【日】
・第27回取手松陽高校美術科展【総合】

12月19日【火】～12月24日【日】
・第44回福展【絵画】

1月10日【水】～1月21日【日】
・横浜美術大学退任記念 北澤茂夫展
～幻視と夢のイメージ～【絵画】

1月23日【火】～1月28日【日】
・つくば市文化協会 第32回芸術展【総合】

1月30日【火】～2月4日【日】
・第11回アール・パレ展【総合】

茨城県天心記念五浦美術館

〈企画展・関連イベント〉
〈間島秀徳展 天地無常 The Kinesis Always Reveals New Panoramas ―そこ新たな風景が〉
9月13日【水】～11月26日【日】

・クロストーク
出演：間島秀徳×小泉晋弥（当館館長）
期日：11月3日【金・祝】 午後1時30分～（約60分）
会場：講堂
定員：114名 ※要企画展チケット

・展覧会担当者によるギャラリートーク
期日：11月19日【日】 午後1時20分～（約40分）
会場：展示室 ※要企画展チケット

〈天心が託した国宝の未来―新納忠之介、仏像修理への道〉
12月9日【土】～2024年2月12日【月・振】
・講演会「天心に命を預けた彫刻家 新納忠之介」
講師：中田智則（茨城県近代美術館企画課長）
期日：1月13日【土】 午前11時30分～（約90分）
会場：講堂
定員：114名 ※要企画展チケット

・展覧会担当者によるギャラリートーク
期日：1月20日【土】、2月4日【日】 各日午後1時30分～（約30分）
会場：展示室 ※要企画展チケット

〈その他のイベント〉

・第34回トワイライトコンサート
出演：杉田愛美（クラリネット）、高野真美（ピアノ）
期日：10月28日【土】 午後5時～
会場：エントランスロビー
定員：200名程度 ※要企画展チケット

・小泉館長による親子向け鑑賞ワークショップ
期日：11月25日【日】 午前10時30分～（約90分）
会場：展示室
定員：小学生と保護者5組（1組4名まで）
※要事前申込（先着順）、保護者は要企画展チケット

・年忘れ！五浦香席
期日：12月17日【日】 午前11時～、午後2時～（約45分）
出演：二松亭ちゃん平（社会人落語家）、相模亭とげ蔵（社会人落語家）
会場：講堂
定員：114名 ※要企画展チケット

・新春邦楽コンサート
期日：1月6日【土】 午前11時～、午後2時～
会場：エントランスロビー
定員：100名程度 ※要企画展チケット

・茨城県警察音楽隊ふれあいコンサート
期日：2月3日【土】 第1部 午前11時～午前11時25分、
第2部 午前11時35分～午前12時
会場：エントランスロビー
定員：100名程度
※各イベントの詳細や申し込み方法は当館ホームページをご覧ください。

〈映画会〉

会場：講堂
定員：114名（当日受付先着順・事前予約も可）／無料
時間：午前の部9時45分～、午後の部1時30分～

・11月12日【日】「笑う101歳×2 笹本恒子 むのたけじ」91分
・12月10日【日】「クリスマス・キャロル」60分
・1月14日【日】「雨に唄えば」102分

〈貸ギャラリー展〉

・12月10日【日】～12月17日【日】 県北地区高等学校合同美術展
・1月11日【木】～1月21日【日】 第39回茨城県美術文芸展覧会
・1月31日【水】～2月4日【日】 引地恵美子の手仕事展

※新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止または延期となる場合があります。最新の情報を各館ホームページ等でご確認ください。



茨城県近代美術館

〒310-0851
水戸市千波町東久保666-1
TEL 029-243-5111
FAX 029-243-9992

HP <https://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県つくば美術館

〒305-0031
つくば市吾妻2-8
TEL 029-856-3711
FAX 029-856-3358

HP <https://www.tsukuba.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県天心記念五浦美術館

〒319-1703
北茨城市大津町橋2083
TEL 0293-46-5311
FAX 0293-46-5711

HP <https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

県立美術館3館（近代美術館・天心記念五浦美術館・陶芸美術館）共通の年間パスポートを発売中！詳しくはお問い合わせください。

美術館では以下の方は無料で展覧会をご覧いただけます。

○土曜日來館の高校生以下の方（ただし、土曜日が夏季、冬季及び学年末・学年始における学校の休業日に当たるときは除きます）
○教育活動としての茨城県内の小・中・高・義務・中等教育・特別支援学校（県外含む）の児童生徒及び引率者並びに教育活動としての茨城県内の幼稚園の幼児の引率者
○国際交流事業として国外から本県に留学している方
○児童福祉施設、身体障害者更生援護施設、知的障害者援護施設、老人福祉施設に入所している方及び付き添いの方（1人につき付き添い1人まで）
○身体障害者手帳、療育手帳の交付を受けている方及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで）
○指定難病特定医療費受給者証の交付を受けている方並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで）
○生活保護法により扶助を受けている方

友の会ニュース 友の会では皆様のご入会をお待ちしております。

〈お知らせ〉

①今年度は6月に春の美術鑑賞旅行、8月に絵画講習会と学芸員による鑑賞講座を実施いたしました。現在、休止となっていた海外美術鑑賞旅行の計画を進めています。他にも行事やイベントを計画しておりますので、会員の皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

②友の会では、新規入会の申込みを随時受け付けております。県近代美術館でお申し込みの場合は、入会申込書を提出し、入会金をお支払いください。直ちに仮会員証を発行いたしますので、会員としての特典をすぐにご利用いただけます。天心記念五浦美術館でお申し込みの場合は、入会申込書の提出と入会金のご入金を確認後、2週間以内に会員証をお届けいたします。

詳しいお問い合わせ

・年会費、ご入会等に関する詳しいお問い合わせは県近代美術館友の会事務局（☎029-243-5111）または県天心記念五浦美術館（☎0293-46-5311）にお問い合わせください。

・友の会ホームページでも年会費、ご入会等に関して確認できます。

<https://www.fmoma.com>

